

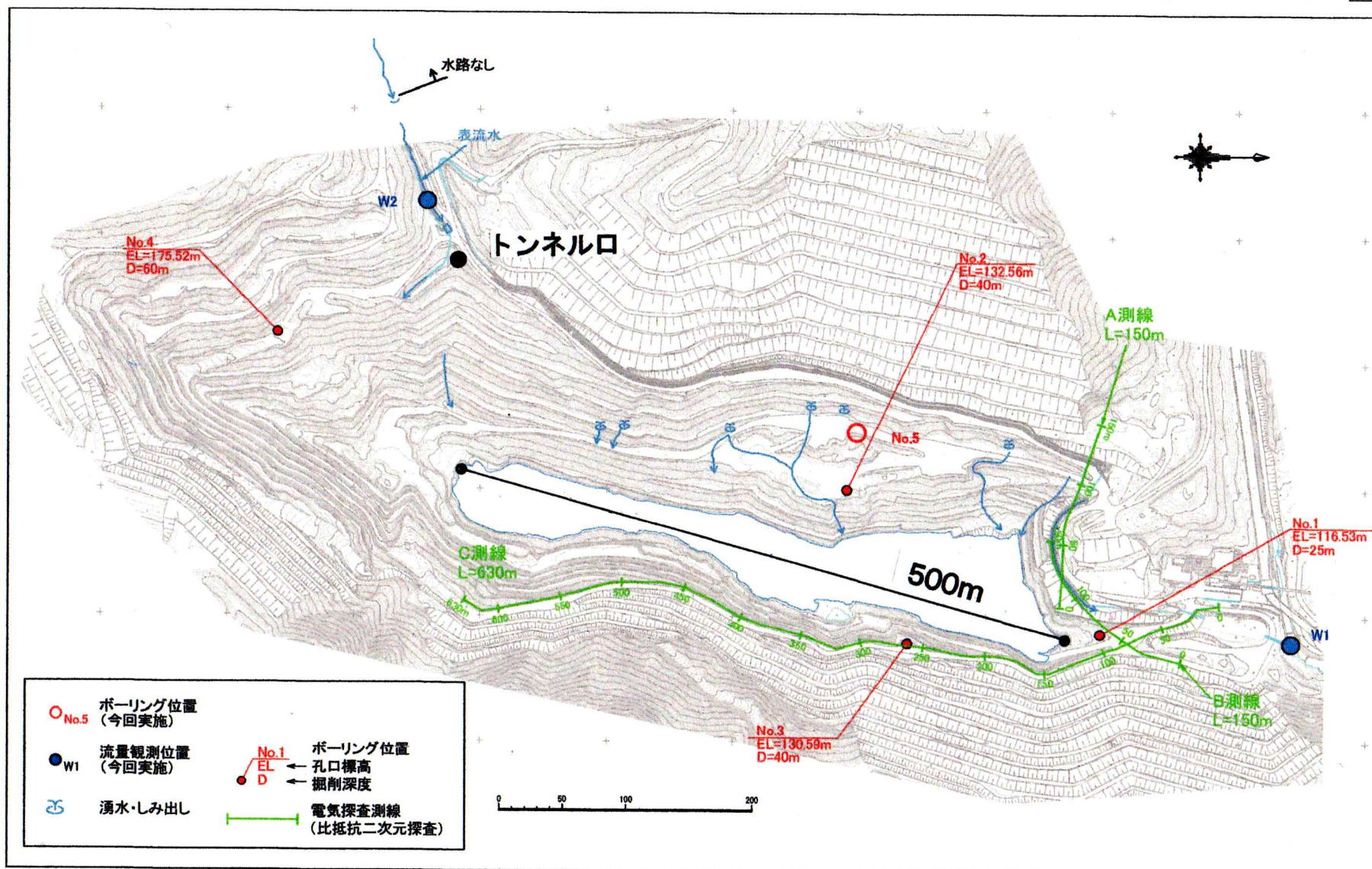


図1 調査計画平面図

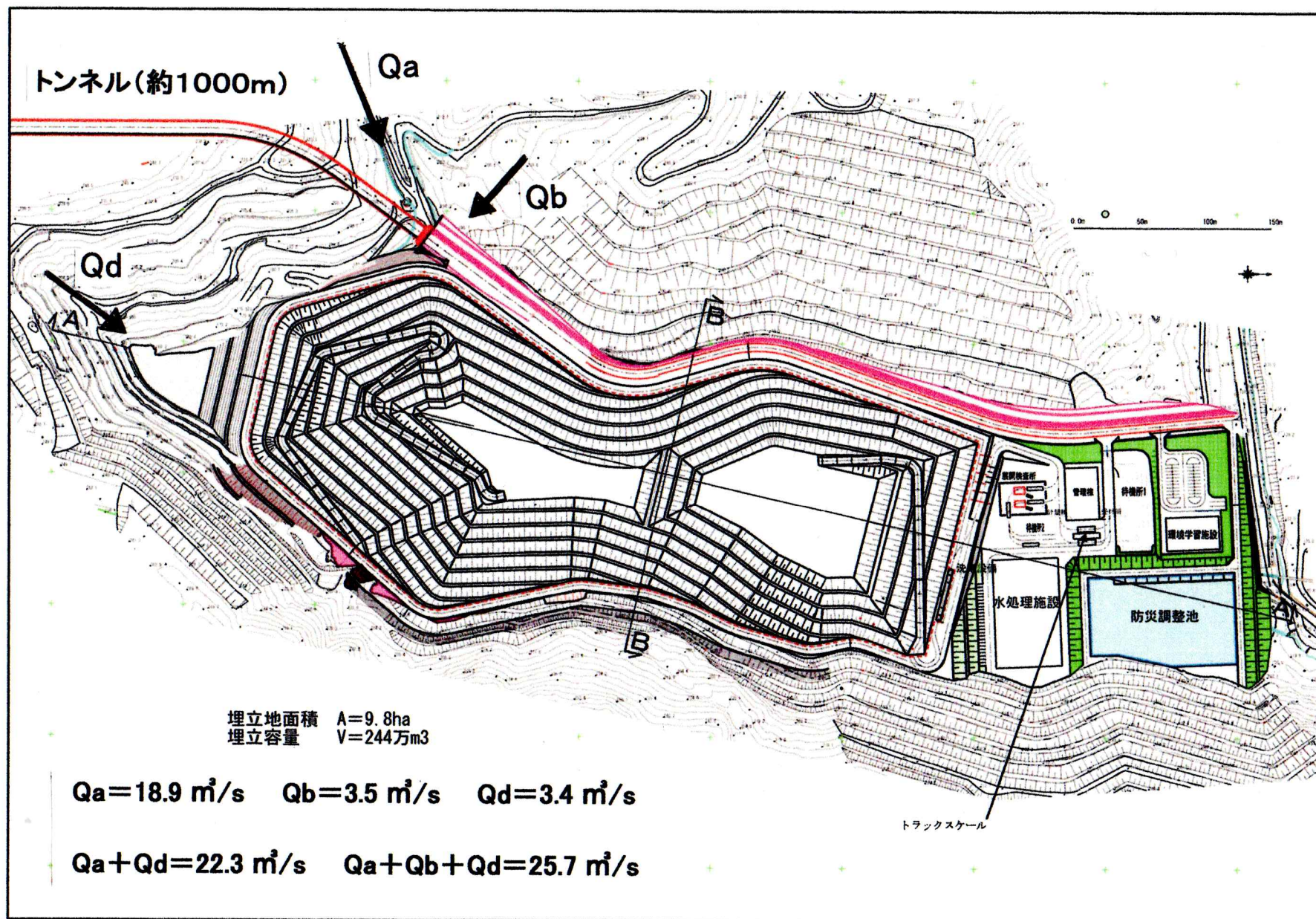


図2 全体配置計画図面



→東側

*** 廃棄物貯蓄槽の縁面以下に埋立てる部分の断面積とその縁面以上に盛上げる部分の面積はほぼ等しい。更に、盛土埋立の部分の面積ともほぼ等しい。よって、埋立てる廃棄物、盛上げる廃棄物、および盛土埋立の各容量はおおよそ等しいと推測できる。**

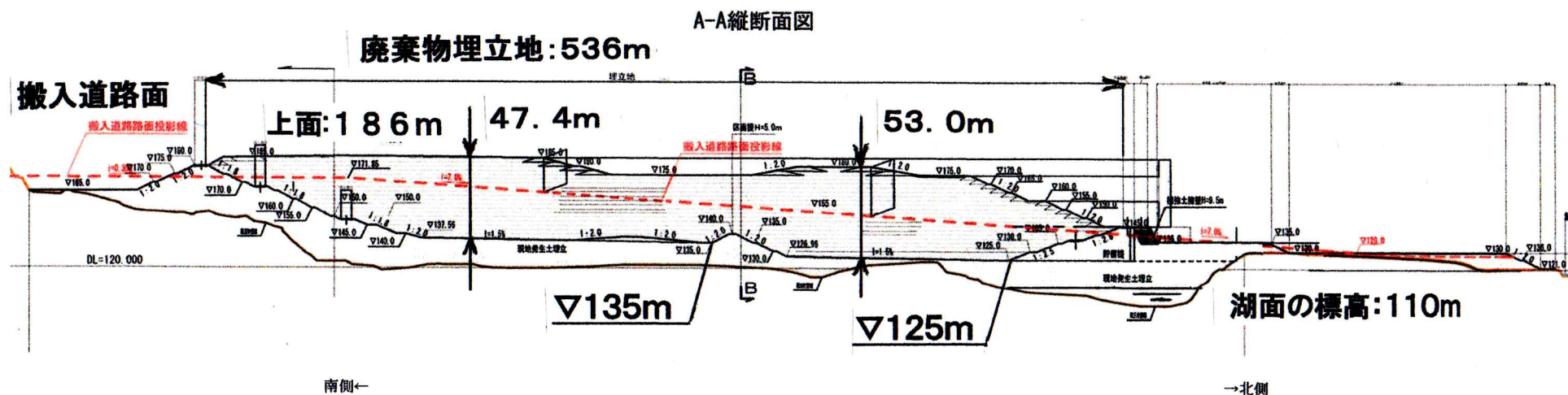


図4 造成計画(縦断面)

* 廃棄物貯蓄槽は、谷沿いに536mに渡り、その縁面の標高が145mから180mまで大幅に変化する、縁面が傾斜した容器である。

岸壁の深い谷間に設置されるため、浅い皿状の容器の面積が限定され、予定の廃棄物処理容量を確保できず、容器縁面の上部にうず高く盛上げられている。このような廃棄物は、崩れやすく、洪水に流され易く、極めて不安定な状況である。

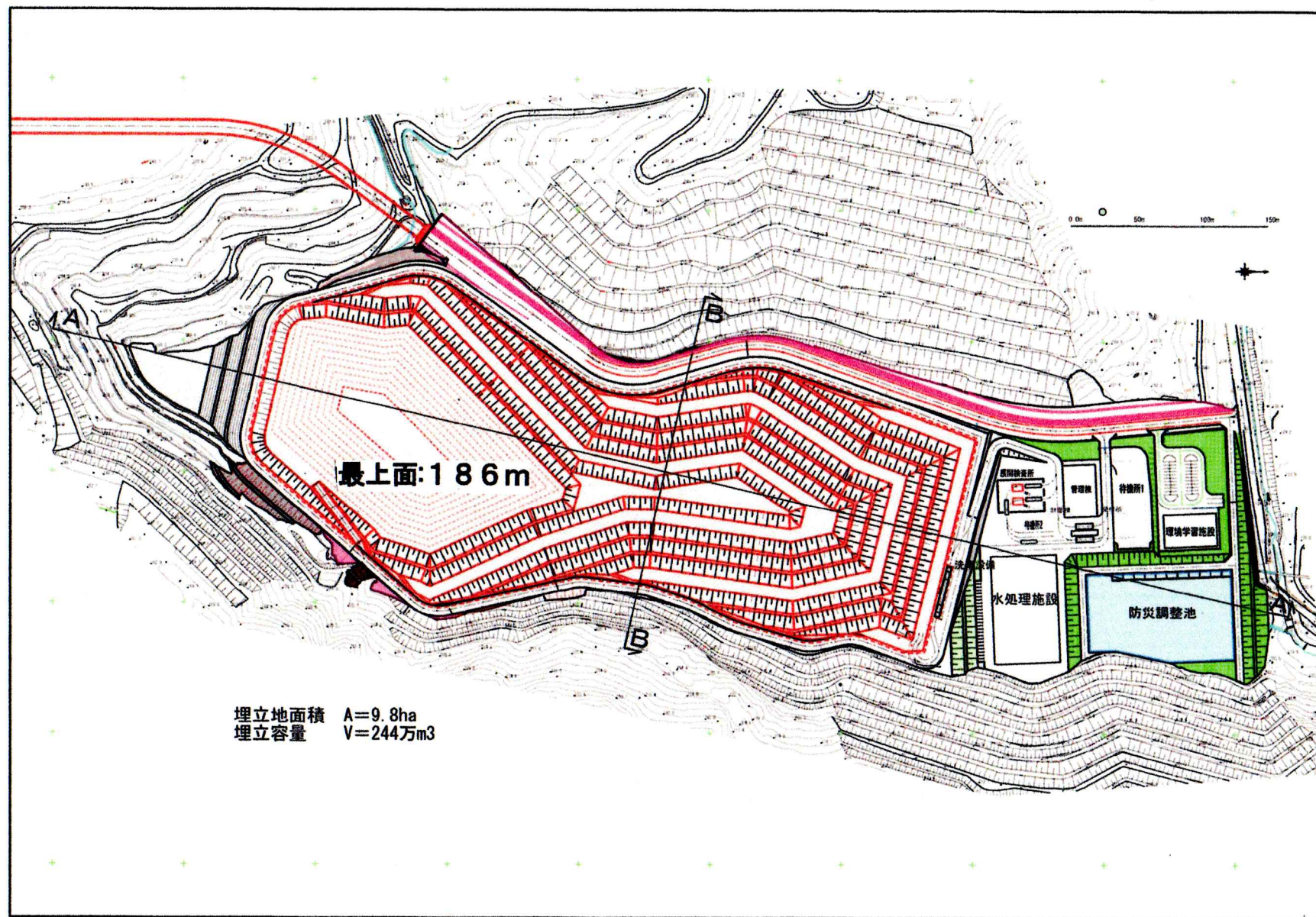
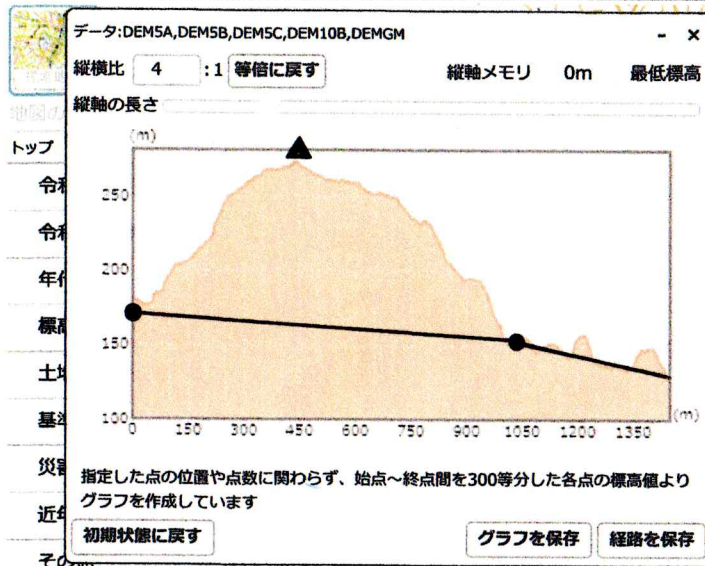


図5 全体計画図面(埋立完了後)

例：劔岳 / 金沢市木ノ新保町 / 35度0分0秒 135度0分0秒 / 35.00 135.00 / 54SUE83694920



標準地図

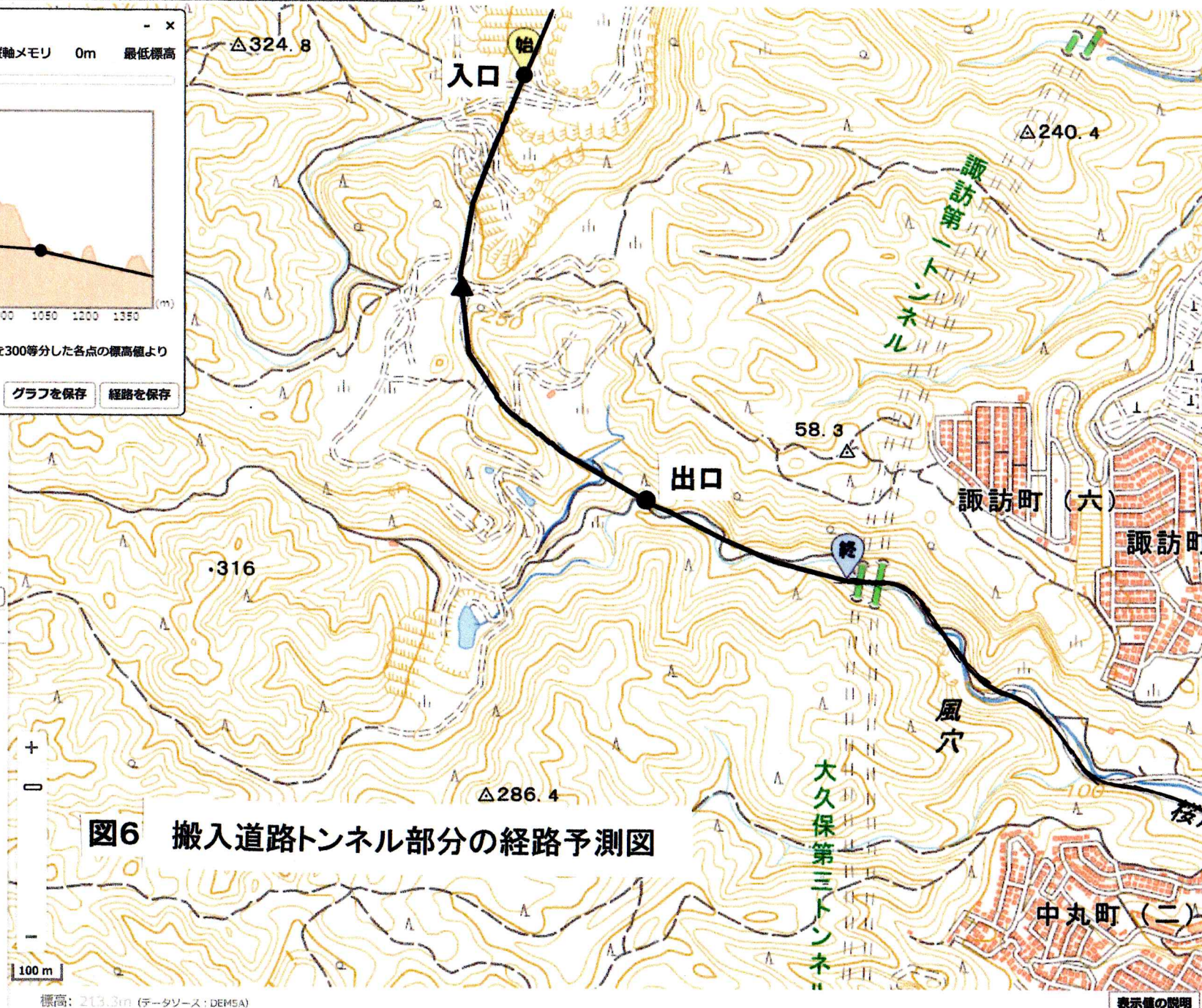
トンネル概要

長さ:約1020m

入口標高:171m

出口標高:150m

図6 搬入道路トンネル部分の経路予測図



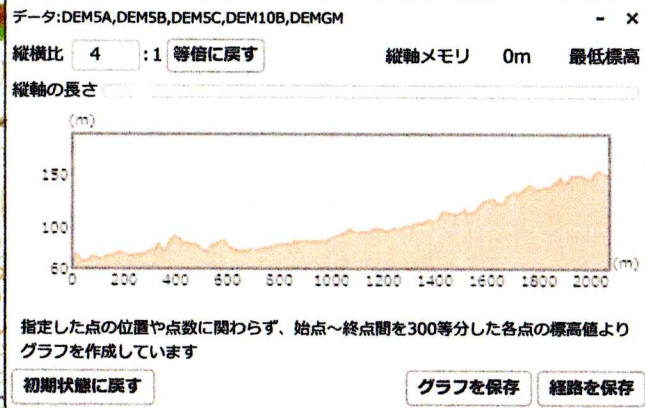
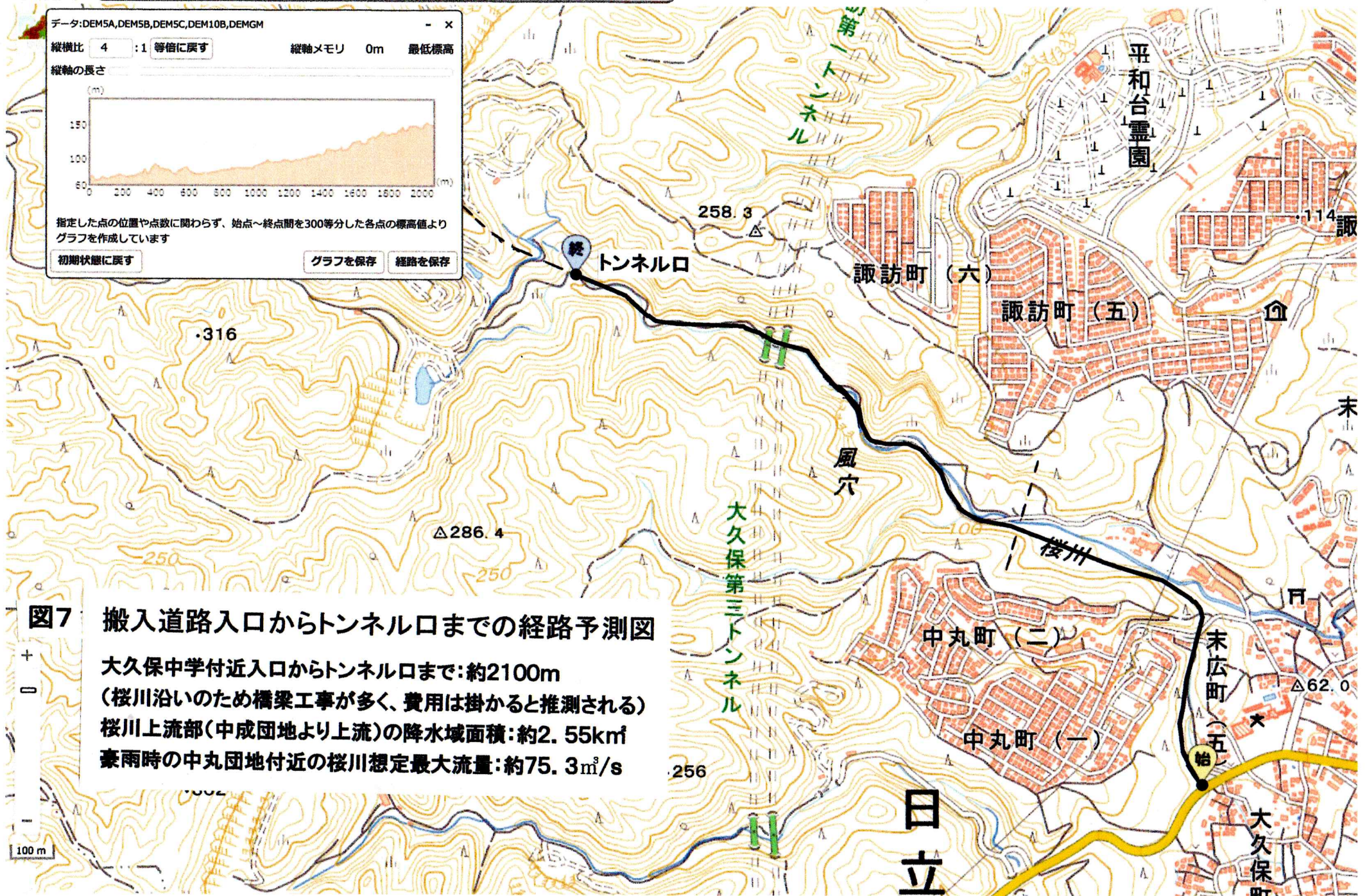


図7 搬入道路入口からトンネル口までの経路予測図

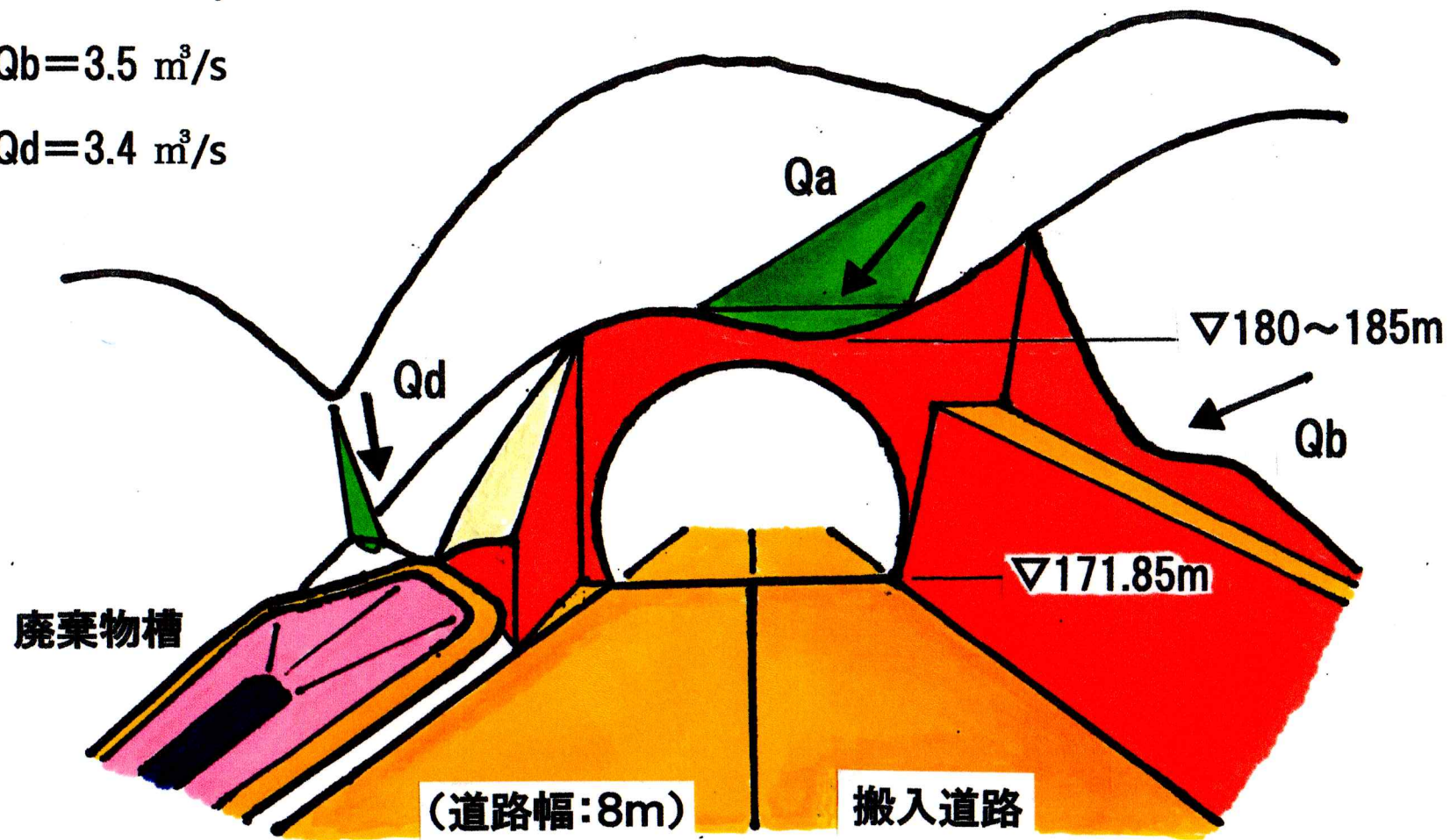
大久保中学付近入口からトンネル口まで:約2100m
 (桜川沿いのため橋梁工事が多く、費用は掛かると推測される)
 桜川上流部(中成団地より上流)の降水域面積:約2.55km²
 豪雨時の中丸団地付近の桜川想定最大流量:約75.3m³/s



$Qa=18.9 \text{ m}^3/\text{s}$

$Qb=3.5 \text{ m}^3/\text{s}$

$Qd=3.4 \text{ m}^3/\text{s}$



(追加図面)

図8 トンネル口付近の概況と豪雨時の流入水の状況